

令和6年6月27日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和6年5月分

～令和6年5月 データから見た業界の動き～

令和6年6月27日 発表

**製造業・非製造業ともにすべてのD.I値が大きく低下
価格転嫁が進まず事業継続に不安を抱える事業者の声が多数**



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和6年6月27日 発表

製造業・非製造業ともにすべてのD.I値が大きく低下 価格転嫁が進まず事業継続に不安を抱える事業者の声が多数

■ 概 況

5月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 ▲14ポイント（前年同月比 22ポイント↓）

収益状況 ▲26ポイント（前年同月比 28ポイント↓）

景況感 ▲20ポイント（前年同月比 24ポイント↓）となり、すべてのD.I値が前年同月を大きく下回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲25ポイント（前年同月比 20ポイント↓）

収益状況 ▲35ポイント（前年同月比 15ポイント↓）

景況感 ▲35ポイント（前年同月比 25ポイント↓）となった。

「売り上げが多少増加しても、製造に係るコスト昇分を補えない（骨材・石工品等製造業）」、「主要取引先への価格転嫁が進まない（紙製造業）」など、多くの事業者が価格転嫁に苦慮しており（収益状況15ポイント低下）、織物業では厳しい状況が一向に改善しないことから生産体制の見直しに着手している。

また、「消費者の購買意欲が低下しており、販売価格を40%ほど値上げしたが、売上げは▲20%となった（貴金属・宝石製品製造業）」、「半導体関連の動きについて、今年の夏頃から少しずつ回復し年内には多忙になると言われていたが、来年までずれ込むとの話もある（電気機械器具製造業）」と、景気回復の兆しが無く、製造業全体で先行きが暗い状況が窺えた。（景況感25ポイント低下）

一方非製造業では…

売上高 ▲7ポイント（前年同月比 24ポイント↓）

収益状況 ▲20ポイント（前年同月比 37ポイント↓）

景況感 ▲10ポイント（前年同月比 23ポイント↓）となり、

「警備員不足によって受注量を調整している企業もある（警備業）」など、業種を問わず人材不足が大きな課題であり売上増加の足かせとなっている（売上高24ポイント低下）。

また、価格転嫁が進まない状況に加えて、賃上げを上回る物価高騰によって、この先も長期にわたって消費活動の低迷が続くことを予測する報告が多く、「円安による諸物価の高騰、燃料費の上昇、設備増強に係る費用の増加、人手不足、最終処分場の受入制限及び処分費の値上げなど、課題は山積みである（廃棄物処理業）」と、事業者の多くが先行きを不安視しており（景況感23ポイント低下）、「事業継続をあきらめてしまう組合員が増えている（管工事業）」との報告もあった。

製造業・非製造業ともに価格転嫁に苦慮している事業者が多く、「原材料価格・水道光熱費などの上昇分を転嫁できておらず、組合として対策を検討している（めん類製造業）」、「組合として需要家から製品単価への転嫁について理解を得ることができるよう要望している（骨材・石工品等製造業）」など、連携組織を活用して価格交渉を行っている。

運送業では4月からの時間外労働の上限規制によるドライバー不足の深刻化によって運行体制の維持すら困難な状況であり、他業種からも運搬費のさらなる上昇や県内物流の停滞などを危惧する声が多く聞かれた。

中央会では、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化しています、お気軽にご相談ください。

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	大口の取引があったため、売上は前年同月比130.3%となった。原材料価格の高騰による収益の確保が困難な状況が続いている。
食料品 (洋菓子製造業)	原料価格が高騰しているが、販売価格の値上げは行っておらず、売上は前年同月比101.7%となった。
食料品 (麺類製造)	原材料価格・水道光熱費などの上昇分を転嫁できておらず、組合として対策を検討している。
食料品 (パン・菓子製造業)	前年同月と比べ製品販売価格を10~25%ほど値上げしたことで、何とか収益を確保することができている。
食料品 (酒類製造業)	商品の販売価格の値上げを検討しているが、実行できていない。
繊維・同製品 (織物)	原糸の調達に困難な状況が続いていることに加え、原材料や電力価格高騰分の転嫁が進まず厳しい状況が続いている。やみくもに製造しても状況は一向に改善しないため、商品ごとの販売状況によって生産体制を構築し直す必要がある。
繊維・同製品 (織物)	OEM生産だけでなく、自社ブランドの生産・販売体制を強化していくことが重要である。
木材・木製品製造	仕事量は確保できているが、売上に結びつかず前年同月と比べ売上げは▲34%となった。県外の大手競合他社との価格競争に勝つことができない。
紙製造業	円安によって原材料価格が高止まりしている中、主要取引先への価格転嫁が進まず、厳しい状況が続いている。
窯業・土石 (砂利)	地域によって工事量・骨材需要に差がある。売り上げが多少増加しても、製造に係るコスト昇分を補えず、前年同月と比べ収益状況は▲10%となった。
窯業・土石 (山碎石)	製造に係るすべてのモノの価格が高騰しており、組合として需要家から製品単価への転嫁について理解を得ることができるよう要望するなど取り組んでいるが、進展がない。組合員も個々で粘り強く交渉を続けている。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲20%となった。円安に加えて、自動車関連・半導体関連の受注量が伸び悩んでおり、先行きを不安視している。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上げ▲10%、収益状況▲20%となった。半導体関連の動きは今年の夏頃から少しずつ回復し、年内には多忙になると言われていたが、来年までずれ込むとの話もある。景気回復の兆しが無く、製造業全体で先行きが暗い。
宝飾 (研磨)	神戸市で開催された展示会での売上は前年並みであったが、想定以上に海外からの来場者が多かった。
宝飾 (貴金属)	原材料価格（特に地金価格）の高騰によって、前年同月と比べて製品販売価格を40%ほど値上げしたが、消費者の購買意欲が低下しており、売上は▲20%となった。地金の相場が安定するまでは厳しい状況が続くことを予測している。

● 非製造業

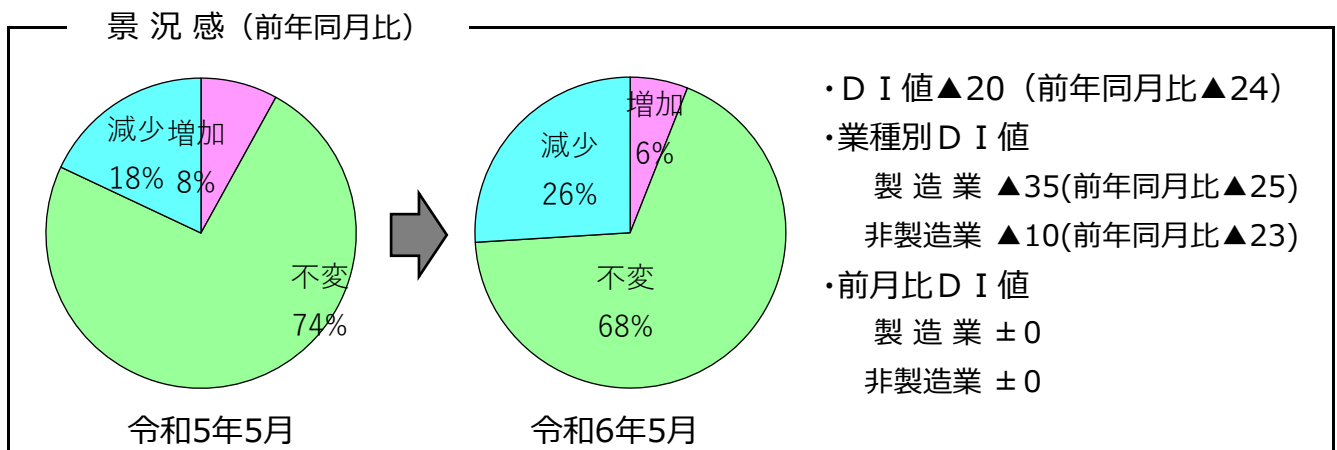
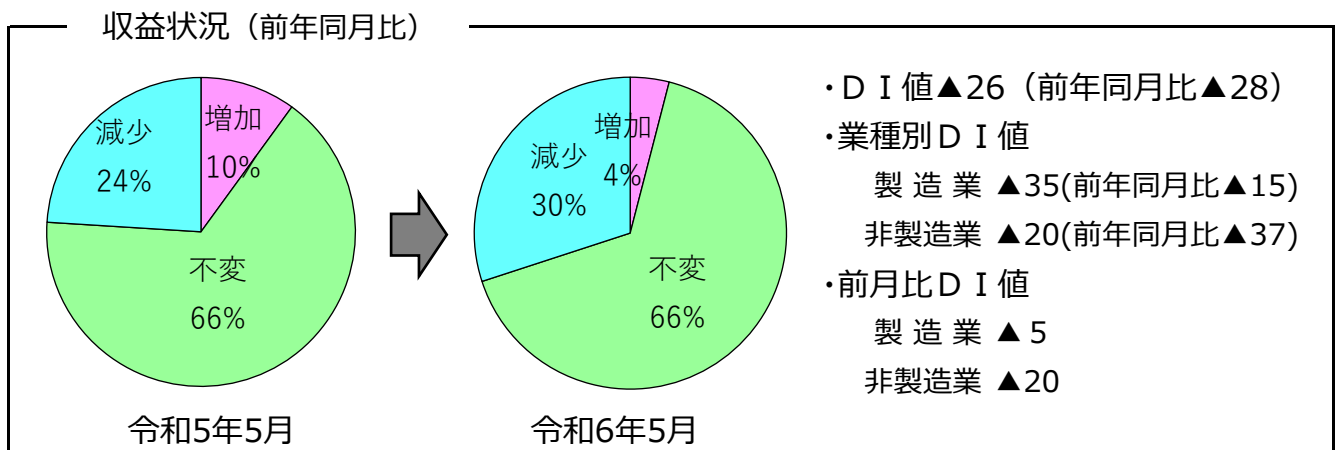
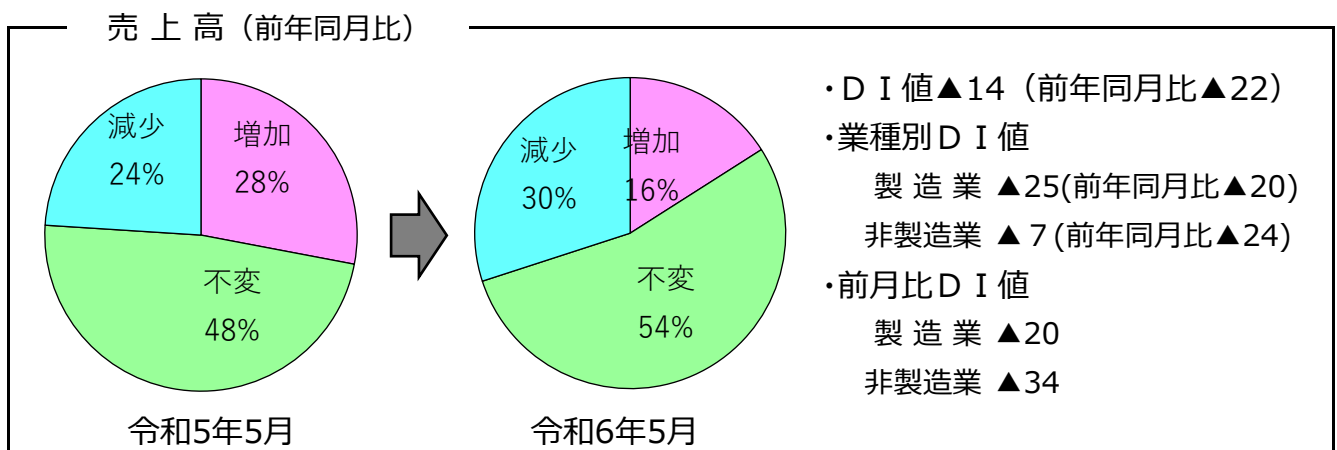
卸売 (塗料)	賃上げを上回る物価高騰によって、消費活動の低迷が長期にわたって続くことを予測している。
卸売 (ジュエリー)	円安によってルース（色石）や金・地金の価格が大幅に上昇している。宝飾品は所謂「贅沢品」であるため、富裕層からは一定の需要はあるものの、若年層向け商品の売れ行きは大きく減少している。今後、年末商戦に向けた企画の検討時期に入るが、ロット数・開発数ともに減少することを予測している。また、金・地金の価格相場は日によって1gあたり100円～200円ほどの変動幅があるため、数ヶ月先の正確な見積り価格を出す事が出来ない。
小売 (青果)	天候不順によって野菜類（特にキャベツ・人参など）の生育が悪く、供給量が安定せず、品種によっては価格が大幅に高騰している。
小売 (電気機械器具小売業)	前年同月と比べ売上げは3%増加したが、収益状況は▲5%となった。大型商品の売れ行きが悪く、ここ数年で一番厳しい状況である。 夏に向けてエアコン等の省エネ機器の売れ行き増加を期待する一方、物価高騰による消費活動の低迷を感じており、先行きは不透明である。
小売 (ガソリン)	原油価格は値下がり傾向であるが、為替は円安基調で推移している。激変緩和対策事業について、補助金額は5月に入り1ℓ当たり25円ほどで推移しているが、事業実施期間や出口戦略について国からのアナウンスが無いことが不安材料である。
商店街	外国人観光客や宿泊施設の利用者の増加によって、大月駅前近隣の店舗は客足が増加しているが、国道20号沿いの店舗は厳しい状況が続いている。
情報サービス業	前年同月と比べて特に変化はない。
宿泊業	ゴールデンウィーク以降も客室の稼働状況は好調である。夏に向けてイベントの開催も増えるため、観光客のさらなる増加に期待している。諸物価の高騰を受けて、宿泊料金の値上げを実施・検討している宿泊施設もある。（甲府地域）
宿泊業	宿泊業界はゴールデンウィーク明けから7月上旬まで閑散期である。（石和地域）
産業廃棄物処理	円安による諸物価の高騰、燃料費の上昇、設備増強に係る費用の増加、人手不足、最終処分場の受入制限及び処分費の値上げ、運送業における2024年問題への対応など、課題は山積みである。
警備業	前年同月と比べ売上げは2%増加した。ゴールデンウィーク中はイベント関連の警備依頼が多く、今後は公共工事関連の警備需要が高まることを予測している。警備員の高齢化等による人手不足が深刻であり、受注量を調整している企業もあるため、業界全体で人材確保に力を入れて取り組む必要がある。
建設業 (総合)	5月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は15%増加したが、請負金額は▲5%となった。5月末の累計件数は14%増加しているが、請負金額は▲8%となった。
建設業 (型枠)	東京圏は山梨県の3～5割増しの単価による契約が通常であるが、県内では価格転嫁が一向に進んでいない。
建設業 (鉄構)	鉄骨部材の価格が高止まりしており、前年同月と比べ売上げは▲3%、収益状況は▲2%となった。今後、運送業の2024年問題が当業界にどのように影響するか注視している。

設備工事 (管設備)	前年同月と比べ売上げは27%増加、収益状況は5%好転した。原材料の高騰による収益状況の悪化や事業承継が円滑に進まないことで、事業継続をあきらめてしまう組合員が増えている。
運 輸 (トラック)	燃料費などの転嫁に理解を示す荷主も徐々に増えてきたが、業界全体に目を向むけると価格転嫁が十分に進んでいるとは言えない。 時間外労働の上限規制によってドライバー不足が深刻化しており、さらなる状況悪化によって県内物流が滞ることを危惧している。

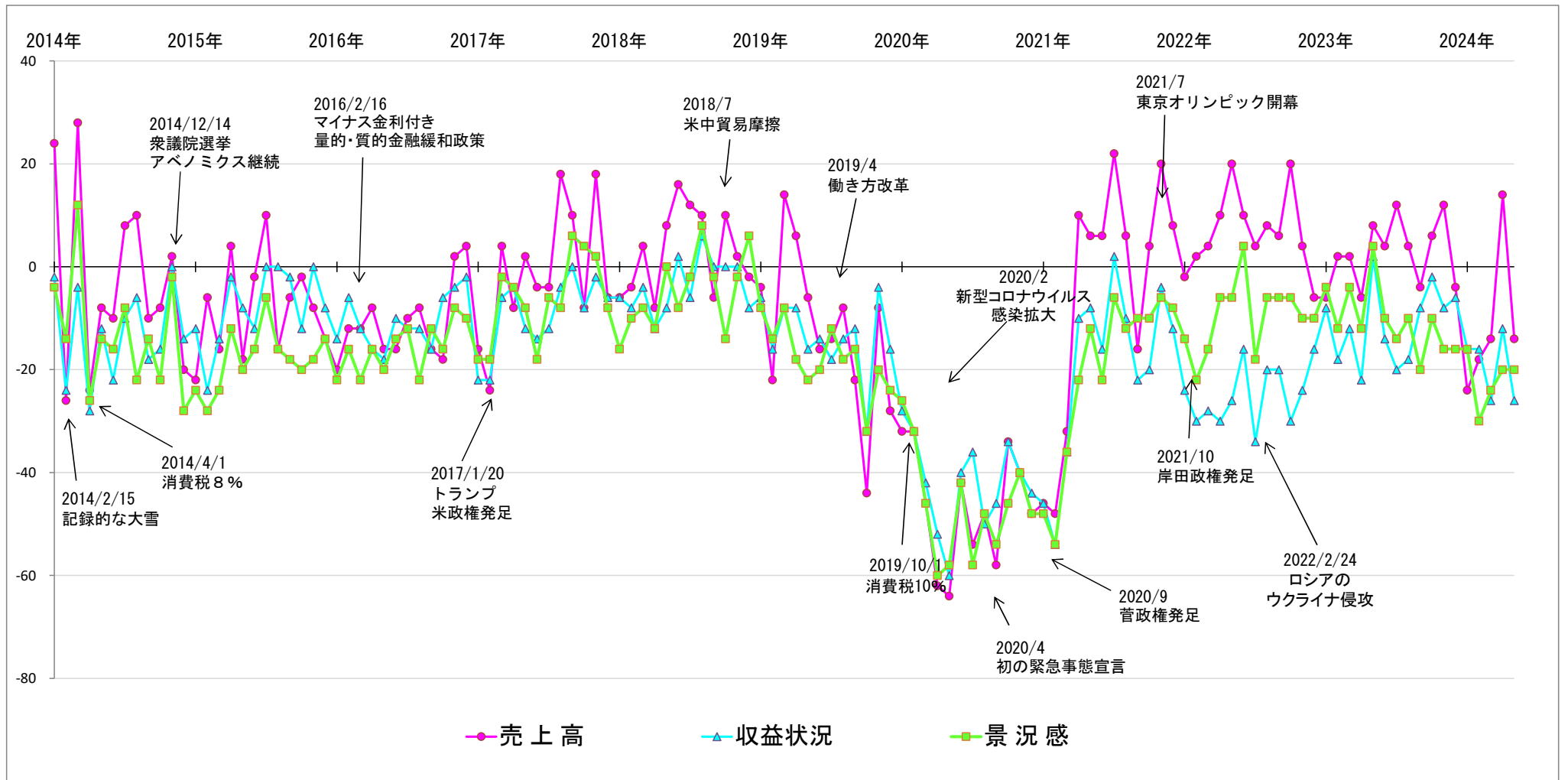
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2023年5月	2024年4月	2024年5月	2023年5月	2024年4月	2024年5月	2023年5月	2024年4月	2024年5月
売上高	▲ 5	▲ 5	▲ 25	17	27	▲ 7	8	14	▲ 14
収益状況	▲ 20	▲ 30	▲ 35	17	0	▲ 20	2	▲ 12	▲ 26
景況感	▲ 10	▲ 35	▲ 35	13	▲ 10	▲ 10	4	▲ 20	▲ 20

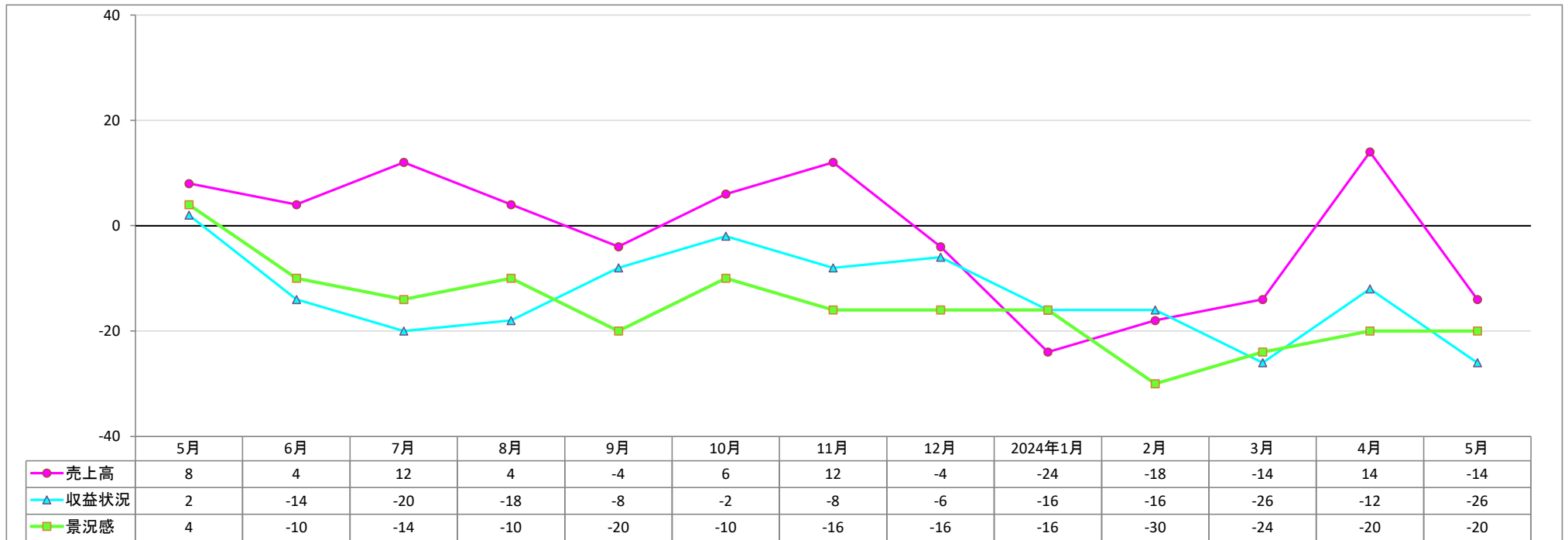
※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



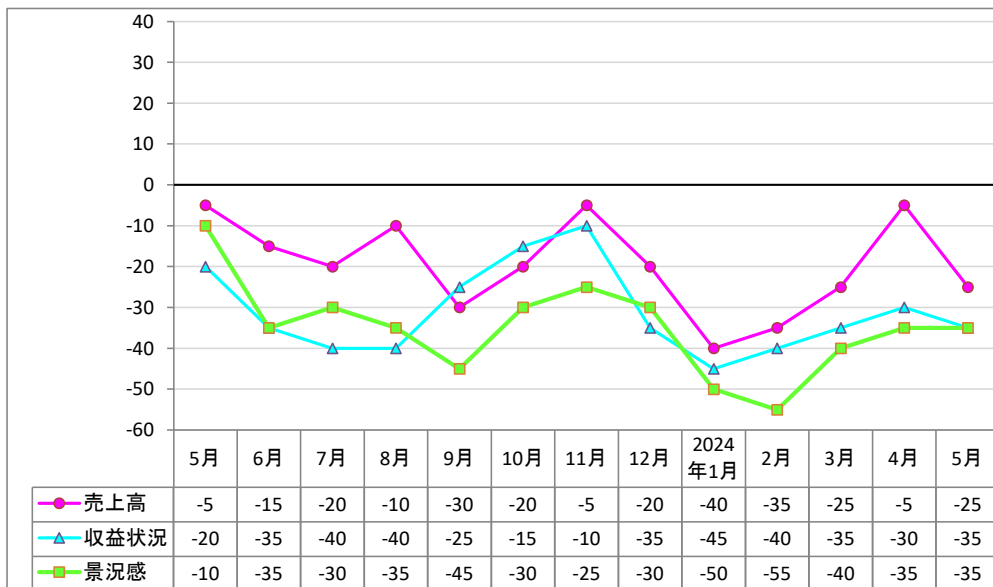
D.I値の推移①(過去10年間) 2014年1月~2024年5月



D.I値の推移②(過去1年間) 2023年5月～2024年5月



【製造業】



【非製造業】

